

おいしい 自然園

ヤブコウジ



静かな冬の林を歩いていると、ひっそりと、でも、ハツとするくらい輝くヤブコウジの赤い実と緑の葉が目飛び込んできます。

その美しく赤い実から、江戸時代には「十両」として正月の寄せ植えに使われ、さまざまな品種も作られたと言います。ブームは大正時代まで続いたとか。

漢字では「やぶこウジ藪柑子」で、こウジ柑子とはミカンの古い言い方です。昔は実をミカンになぞらえたのでしようが、今ならさしづめ「ヤブリンゴ」でしょうか。

ヤブコウジは、従来ヤブコウジ科とされていましたが、新しい分類体系ではサクラソウ科ヤブコウジ属としてくくられています。同じグループには、マンリョウ（万両）やカラタチバナ（百両）も属しています。な

お、正月飾りに使われることが多いセンリョウ（千両）は、センリョウ科というまったく違ったグループに属しています。



冬は赤い実をつける 林床で赤い実をつけるヤブコウジ